



令和4年度 奄美群島ユニバーサルツーリズム 推進事業 報告書

特定非営利活動法人 e ワークス鹿児島



令和4年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業報告書

○事業概要

●目的

新型コロナウイルス感染症拡大により、健常者はもとより、障害者や高齢者は、観光や旅行に行くことが困難な状況であり、奄美群島においては、健常者と同様に楽しむことのできる観光コースの整備や受入体制が構築されていない状況にある。

そこで with コロナにおいても誰もが安心して奄美群島を訪れることができるよう受入体制の構築を進めることで、新型コロナウイルス感染症拡大が減少した観光・交流人口の回復へつなげる。

●実施事業

- ・観光団体、障害者・高齢者団体の代表者等を委員とした検討会の開催
- ・ユニバーサルツーリズムに係る実態調査・情報発信
- ・ユニバーサルツーリズム推進に係るおもてなし研修会の開催

それぞれを各島にて開催

○検討会

観光事業者や各団体、障害者・高齢者団体、交通事業者、行政（観光・福祉）等の構成メンバーで検討会を開催。奄美群島におけるユニバーサルツーリズムの推進にあたって、関係者間の情報共有や取組方針の合意形成を図ることを目的として実施。

過去2年間の事業でさまざまな検討を重ねており、今年度は各島でのユニバーサルツーリズムの着地目標（テーマ）を決め、地域の状況を把握し関係機関が協力して目標達成できるように検討。

◎ 検討事項

議題1：施設調査・情報発信について

議題2：ユニバーサルツーリズムの目標設定

◎ 実施報告

● 喜界島

日 時：令和4年8月24日	テ ー マ：全ての人が短時間で楽しめる島
場 所：喜界町役場	
参加者：15人	



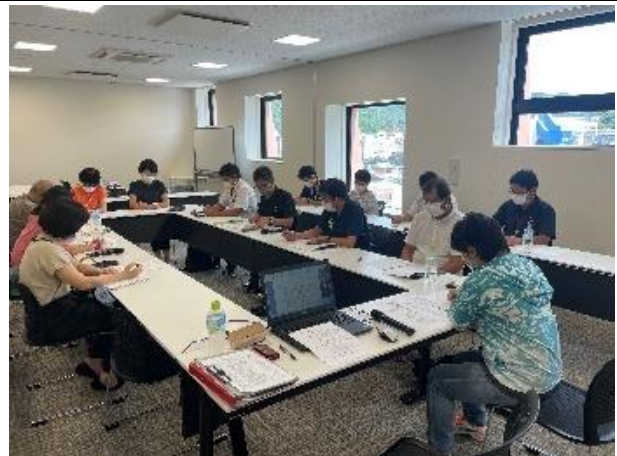
令和3年度検討会での課題の整理

	課 題	解決案
1	島内で車椅子対応のトイレが少なく、車椅子で利用できるトイレの場所の周知（情報収集と公開）が必要。	今年度事業で、情報収集と公開。関係機関と情報共有を行う。
2	島内の観光施設、宿泊施設、飲食店や土産物店等の情報収集（入口の段差の有無、段差の高さ、車椅子で使えるトイレの有無等）と発信。	

3	車椅子で利用できる飲食店や器具のレンタル等の福祉関係の情報を観光推進団体や観光関係者と共有する。	飲食店については、今年度事業でできる限り情報収集を行う。 器具のレンタル等については、情報整理を行う。
4	昼食と夕食に車椅子で利用できる飲食店情報の収集	
5	車椅子でも利用可能な島内の宿泊施設を把握する。	車椅子の方が、宿泊できる施設が少なく、工夫が必要。 また車椅子の方以外のお客様をターゲットにすることも検討
6	雨天時に対応可能な観光ルートづくり	どこの観光地でも同じ課題がある。 室内での体験プログラム等を検討する。
7	社協の情報共有の場の整備や社協関係者間の観光情報を共有する。	今年度事業で、具体策を検討する。
8	島内移動について、折りたたんだ車椅子を載せられる車種の確認等とあわせてレンタカーの利用も検討する。	レンタカーについては、車種等を確認する。
9	各島の保健福祉団体等の協力体制等も視野に入れたユニバーサルツーリズムに対応する案内窓口や問合せ先の明確化。	当バリアフリーツアーセンターを中心に関係機関と連携し、問い合わせ対応を行う。各機関の役割を明確化する。
10	奄美群島全体としてのユニバーサルツーリズム関連の情報収集、管理と一元的な発信。	
11	観光、交通、保健福祉の関係者間の情報共有体制整備と観光や交通関係者の意識醸成。	関係機関との連携と情報共有。 おもてなし研修会等の参加を通して、意識醸成を行う。

●奄美大島

日 時：令和4年8月25日	テ ー マ：お客様のしたいを叶える島
場 所：奄美市民交流センター	
参加者：27人	



令和2年度検討会等での課題の整理

	課題	解決案
1	施設整備では、当事者の利用方法や使い勝手の確認と、当事者の意見を反映させることが大事。	バリアフリー整備においては、施工段階から、さまざまな当事者の声を反映させる仕組み作りが必要。
2	島内の観光施設、宿泊施設、飲食店や土産物店等の情報収集と発信	今年度事業で奄美群島全体の情報収集、発信を行う。
3	奄美群島全体としてのユニバーサルツーリズム関連の情報収集、管理の一元的な発信。	収集したデータについては、関係機関で共有できるようにする。 情報の更新や発信については、各団体のホームページへのリンクなどの協力が必要。また誰でも気軽に発信できる仕組み作りや、紙媒体以外での観光情報の発信も必要。
4	観光施設、宿泊施設、飲食店や土産物店等の障害者向けの観光情報を記載したマップや冊子の製作と配布。	
5	空港や港からの島内移動手段の情報提供	移動手段の情報収集と整理を行う。
6	関係機関との情報共有体制整備、意識の醸成	関係機関との情報共有体制の整備を行う。 おもてなし研修会で意識の醸成を行う。
7	「困った時には声をかけてください」等の張り紙の掲示	おもてなし研修会で声かけ等を学ぶ。
8	保健福祉団体との協力体制、ユニバーサルツーリズムに対応する相談窓口や問合せ先の明確化	かごしまバリアフリーツアーセンターを中心に、地元関係機関で協働して対応できる体制を整備する

●徳之島

日 時：令和4年9月8日	テ ー マ：バリアフリーなおもてなしができる島
場 所：徳之島文化会館	
参加者：21人	



令和2年度徳之島検討会等での課題の整理

課題	解決案
<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで利用できる宿泊施設、観光地や飲食店、トイレ等の情報を共有と発信を行う。 ・問い合わせ窓口や提供する情報の整理を行い、島内の情報共有の体制づくりを進める。 ・持病を持っている方でも旅行できるように、病歴を共有できるようにする。 ・島内の福祉施設や福祉関係者との連携や協力体制を整える。 	<p>今年度事業で奄美群島全体の情報収集、発信を行う。</p> <p>収集したデータについては、関係機関で共有できるようにする。</p> <p>情報の更新や発信については、各団体のホームページへのリンクなどの協力が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・住民がバリアフリーに対応できるようにする。 ・簡易型のバリアフリー対応の用具を充実する。 ・短時間で効率的な車いす利用者のフェリーの乗降を行う必要がある。 	<p>おもてなし研修会で意識の醸成を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーに対応した港のインフラ整備を進める。 ・バリアフリーに対応したトイレ整備を進める。 ・専門家と連携しながら、道路施設のバリアフリー対応を進める。 ・観光地のバリアフリー整備にあたって、専門家からアドバイスをもらうようにする。 	<p>バリアフリー整備においては、施工段階から、さまざまな当事者の声を反映させる仕組み作りが必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応のレンタカーを充実する。 ・障害者に対応できるようにドライバーやエコガイド育成する。 ・手話通訳者を増やす、ボランティアを充実する。 ・障害者の方が気軽にコミュニケーションできるようにする。 	<p>関係機関との情報共有体制の整備を行う。</p> <p>おもてなし研修会で意識の醸成を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・気候を生かした障害者スポーツのキャンプ地として充実する。 ・障害者や高齢者が自然を楽しめるコースを設定する。 ・観光資源の価値とバリアフリーを両立する。 ・若い世代にとって徳之島を魅力に感じるようにする。 	<p>今年度、検討会において具体的に検討を進め、目標を設定する。</p>

●沖永良部島

日 時：令和4年9月13日	テ ー マ：来島者に合わせたおもてなしができる島
場 所：和泊町公民館	
参加者：15人	



令和2年度沖永良部島検討会での課題の整理

課題	解決策
<ul style="list-style-type: none"> ・島内の観光施設、宿泊施設、飲食店や土産物店等の情報収集と発信。 ・空港や港に到着後の島内移動手段の情報提供。 ・奄美群島全体としてのユニバーサルツーリズム関連の情報収集、管理、一元的な発信。 	<p>今年度事業で奄美群島全体の情報収集、発信を行う。収集したデータについては、関係機関で共有できるようにする。</p> <p>情報の更新や発信については、各団体のホームページへのリンクなどの協力が必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観光、交通、保健福祉の関係者間の情報共有体制整備と観光や交通関係者の意識醸成。 ・施設等での「困った時には声をかけて下さい」等の張り紙の掲示。 	<p>おもてなし研修会で意識の醸成を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー及びユニバーサルツーリズムに関する施設整備では、障害者や高齢者などの当事者の利用方法や使い勝手の確認と、当事者の意見を反映させる。 	<p>バリアフリー整備においては、施工段階から、さまざまな当事者の声を反映させる仕組み作りが必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各島の保健福祉団体等との協力体制等も視野に入れたユニバーサルツーリズムに対応・する案内窓口や問合せ先の明確化。 ・ユニバーサルツーリズムや雨天時に対応可能な島内のルートづくり。 	<p>関係機関と調整し、課題解決策を検討する。</p> <p>お問い合わせ窓口についても、今年度検討する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・沖永良部島として目指すユニバーサルツーリズムのレベルや目標を設定する 	<p>今年度、検討会において具体的に検討を進め、目標を設定する。</p>

●与論島

日 時：令和4年10月28日	テ ー マ：お互いに思い合う心が伝わる島
場 所：与論町役場	
参加者：7人	



令和3年度与論島検討会での課題の整理

課 題	解決策
<ul style="list-style-type: none"> ・社協の専用車両は島民向けの利用が本来の目的のため、自由度の高い島内移動にレンタカーの利用可能性を確認する必要がある。 ・トラベルヘルパー等の旅先（与論島）での介助や介護のサポートサービスの整備。 ・ユニバーサルツーリズムのルートとあわせて雨天時に対応可能な観光ルートを検討する。 	<p>関係機関と調整し、課題解決策を検討する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子に対応している飲食店者宿泊施設の確認や器具のレンタルや与論病院が旅行者に対応できる医療サービス等の福祉関係の情報を観光協会と共有する。 ・与論町役場が集約している島内のトイレ情報を広く公開する。（観光協会サイトへの掲載） 	<p>今年度事業で奄美群島全体の情報収集、発信を行う。</p> <p>収集したデータについては、関係機関で共有できるようにする。</p> <p>情報の更新や発信については、各団体のホームページへのリンクなどの協力が必要。</p>

○実態調査・情報発信

◎現況確認（バリアフリー調査）の考え方（配布資料）

障害の種類は無数にあります。障害者（高齢者）と一括りにしても車いす利用者もいれば、視覚障害、知的障害、内部障害、肢体不自由など様々です。視覚障害者にとって情報源となる点字ブロックは、車いす利用者にとっては移動しづらいバリアになってしまいます。

また、若くて腕の力がある車いす利用者と、高齢で腕の力がない車いす利用者では、バリアと感じる段差の高さが変わってきます。

それらどんな人にでも対応するモノづくりがユニバーサルデザイン（すべての人に最初から使いやすい）という考えですが、世の中にすでにあるモノのほとんどはバリアだらけです。段差のまったくない施設だけをバリアフリーだ、ユニバーサルデザインだと紹介しては、「行けるはずの場所」の情報を教えてもらえない方もできます。

とりわけ観光においては、バリアは当然のようにあり、むしろバリアこそ観光の醍醐味と言えることも少なくありません。山や海を代表する自然系のレジャー、神社仏閣には石段や砂利道など、俗世とのバリアがどこかに必ずあります。知らない街を散策することや方言もバリアの楽しみです。外国語ができないからと、海外に行かない人はいないでしょう。

つまり、ユニバーサルツーリズムで大切なことは、どこがユニバーサルデザインになっているかではなく、旅行者本人が何を楽しみたいかなのです。

かごしまバリアフリーツアーセンターでは、「**パーソナルバリアフリー基準**」という仕組みを利用しています。

「パーソナルバリアフリー基準」とは、行けるところに行くのではなく、旅行者が行きたいところ、楽しみたいことを実現するために、**旅行者一人ひとりの状況に合わせて情報提供や旅行アドバイスを行う相談システム**です。

パーソナルバリアフリー基準には、明確な数値での基準はありません。全てに対してのバリアフリーを作ることは難しいと考え「障害者の数だけバリアの種類はある」。そして「それぞれの障害者（＝旅行者）の都合によって変化する」という考え方です。パーソナルバリアフリー基準の考え方には、障害者の視点で評価をすることやハード面（設備・物理的なもの）だけでなく、ソフト面（人的介助・対応）も評価することにあります。

「パーソナルバリアフリー基準」では、「段差あり、なし」などといった画一的な基準ではなく、その施設の「バリア」をすべて詳しく調べ、ありのまま紹介するのが特長です。

「パーソナルバリアフリー基準」は、伊勢志摩バリアフリーツアーセンターが開発したシステムで、現在全国各地のバリアフリーツアーセンターでこのシステムに基づいたバリアフリー旅行相談が行われています。

- 長いスロープの先にある、絶景の展望台。
- 客室内にあるバリアフリーなユニットバスと、入口に段差がある貸切展望露天風呂。
- ユニバーサル対応の1泊3万円の宿と、館内の車いすトイレ利用が前提のビジネスホテル。

私たちが提供する情報をもとに、旅の魅力とお客様ご自身にとっての使い良さ考慮し、どれを選ぶのかまたバリアを越えて行くのか、行かないのかは、お客さま自身に判断していただきます。

お一人お一人のお身体の状態や、介助できる同行者の有無、行きたい気持ちの強さなどによって、さまざまな結果になるはずです。

また、**バリアを打ち破り回避する方法を提案したり、お客様と一緒に考える**ことも、私たちバリアフリーツアーセンターの大切な仕事です。これらの考え方を基に、今年度は奄美群島各島においてバリアフリー調査を実施します。

◎今年度調査施設

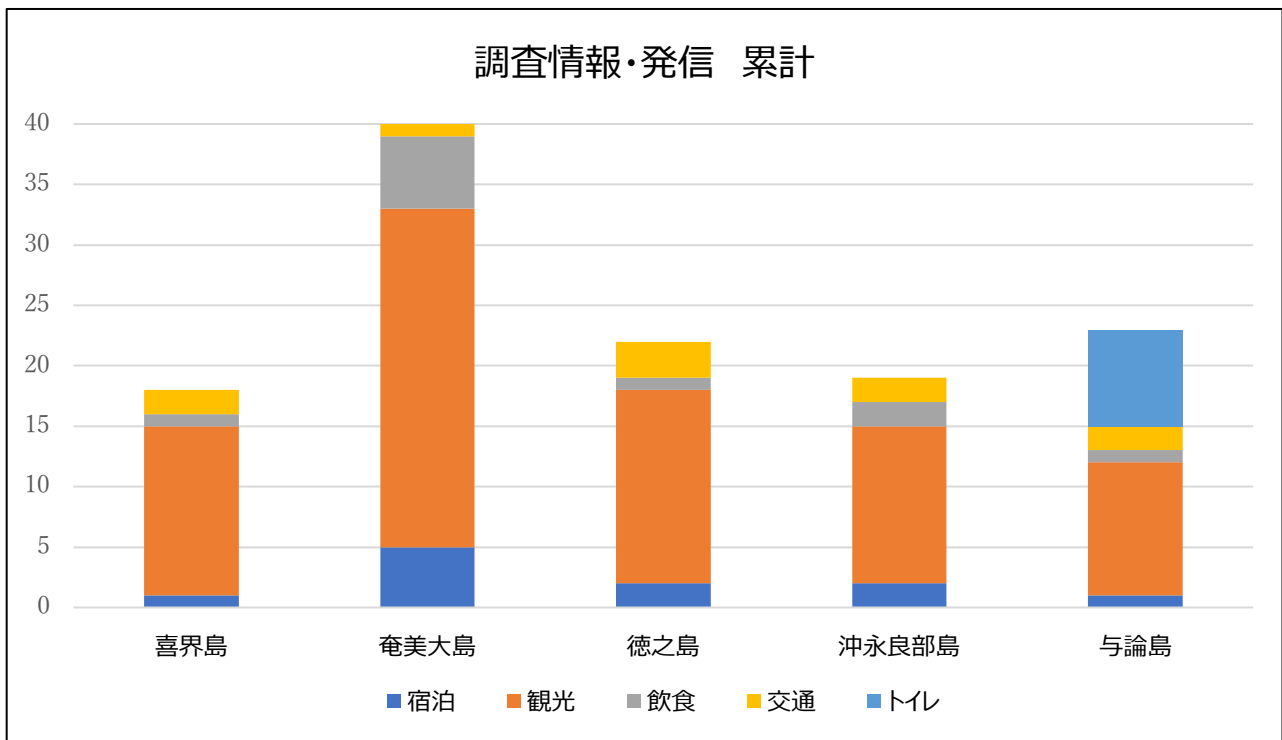
		No.	施設名	分類
1	奄美大島	1	ホテルニュー奄美	宿泊
2		2	ホテルニューウエストコート奄美	宿泊
3		3	ならびや	飲食
4		4	ラフォンテ	飲食
5		5	マネン崎展望台	観光
6		6	ケンムンの館	観光
7		7	世界自然遺産センター	観光
8		8	ビックⅡ	観光
9		9	奄美自然観察の森	観光
10	喜界島	1	雁股の泉	観光
11		2	手久津久（てくづく）の巨大ガジュマル	観光
12		3	ウフヤグチ鍾乳洞	観光
13		4	喜界第一ホテル	宿泊
14		5	テーブルバンダ	観光
15		6	荒木・中里遊歩道林	観光
16		7	掩体壕	観光
17		8	埋蔵物文化センター	観光
18		9	朝日酒造	観光
19		10	喜界島空港	交通
20		11	湾港旅客待合所	交通
21	徳之島	1	徳之島町立郷土資料館	観光
22		2	にしかわ酒造	観光
23		3	天城町立ユイの館	観光
24		4	松原闘牛場	観光
25		5	花徳闘牛場	観光
26		6	伊仙町歴史民俗資料館	観光
27		7	百菜	観光
28		8	ほーらい館	観光
29		9	茶所あがりまた	飲食
30		10	レクストン徳之島	宿泊
31		11	グランドオーシャン	宿泊
32		12	亀徳新港待合所	交通
33		13	平土野港待合所	交通
34		14	徳之島空港	交通

令和4年度奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業報告書

35	沖永良部島	1	えらぶきっちゃん TERU	飲食
36		2	西郷食堂	飲食
37		3	沖永良部芭蕉布会館	観光
38		4	おきえらぶフローラルホテル	宿泊
39		5	ホテルシーワールド	宿泊
40		6	ジョッキヌホー	観光
41		7	世之主の墓	観光
42		8	沖永良部酒造	観光
43		9	新納酒造	観光
44		10	和泊港ターミナル待合所	交通
45		11	沖永良部空港	交通
46	与論島	1	ヨロン駅	観光
47		2	愛の鐘	観光
48		3	ハジピキバンダ	観光
49		4	大金久海岸	トイレ
50		5	寺崎海岸	トイレ
51		6	中金久バスハウス	トイレ
52		7	前浜海岸	トイレ
53		8	宇勝海岸	トイレ
54		9	皆田海岸	トイレ
55		10	供利漁港	トイレ
56		11	王者の椅子	トイレ
57		12	与論民俗村	観光
58		13	ゆんぬ体験館	観光
59		14	サザンクロスセンター	観光
60		15	与論城跡	観光
61		16	琴平神社	観光
62		17	与論島ビレッジ	観光
63		18	ヨロン島観光協会	観光
64		19	ヨロンの味 たら	飲食
65		20	プリシアリゾート	宿泊
66		21	有村酒造	観光
67		22	与論港船客待合所	交通
68		23	与論空港	交通

◎ 調査・情報発信累計

	今年度 (R4)	合計	他事業 (R3 まで)
喜界島	宿泊 1、観光 8、交通 2	11	観光 6、飲食 1
奄美大島	宿泊 2、観光 5、飲食 2	9	宿泊 3、観光 23、飲食 4、交通 1
徳之島	宿泊 2、観光 8、交通 3、 飲食 1	14	観光 8
沖永良部島	宿泊 2、観光 5、飲食 2、 交通 2	11	観光 8
与論島	宿泊 1、観光 11、飲食 1、 交通 2、トイレ 8	23	0



◎ 情報共有

施設調査を実施した施設は、かごしまバリアフリーツアーセンターのホームページで、随時情報公開を行っています。

情報は、いつでも追記や写真の差し替えが可能。

公開情報以外に、各施設の詳細情報をまとめて、共有する。

〇おもてなし研修会

	日時	場所	参加者
奄美大島	令和4年10月3日	りゅうがく館	20人
沖永良部島	令和4年11月24日	和泊町公民館	2人
与論島	令和4年11月29日	ゆんぬ体験館	15人
徳之島	令和4年12月9日	徳之島文化会館	1人
喜界島	令和4年12月19日	喜界町役場	8人
オンライン	令和5年1月30日	Zoom使用	3人



奄美大島



与論島



沖永良部島



喜界島



徳之島



奄美大島 JINRIKI 体験

◎ アンケート（抜粋）

① 奄美大島会場より

・できてない理由をさがすより、どうやったらできるのかを考えていると楽しい！！との言葉が印象的でした。本日はありがとうございました。

・ユニバーサルツーリズムが島内では、まだそれほど認知されていない状況であると思っている。今後、ユニバーサルツーリズム推進となるためにも、今回受講した研修会の内容を参考にしていきたい。

・“障害”の範囲が広いので、一体どこから、どんな視点から取り組めば良いのか全く分からなかったのですが、とりあえず“高齢者”で足腰が弱くなってきた人をイメージして、やれることをやってみたら良いのかな、と思いました。

・会員の参加が少なかったため、会員向けに研修会を開催できればと思いました。多くの方に研修を受けていただき、まずは意識を変えてほしいと思います。ありがとうございました。

② 与論島会場より

・介護のスキルが観光に生かせるというのがおもしろかった。

潜在看護師さんも多くいるので、ぜひ、おつなぎしたいと思った。

・少し考え方を考えるだけで、とても可能性が広がると感じました。そうゆう考え方・やり方を学べてとても勉強になりました。実際に車イスに乗ってみたり、実際に使えるようなテクニックも学べてよかったです。

・海のガイドラインを策定中なので、その中に取り入れたい。「逃げるバリアフリー」車イス・ベビーカーのレンタルを検討したい。海岸沿いに新しい施設ができる予定なのでユニバーサルビーチを検討。現状を把握してやれるところから始める。

・とても勉強になりました。はば広い内容の研修で日常でもつかえる事まで教えていただきありがとうございます。そして話がおもしろく!! 楽しめました!! 与論で出来るようにしたいです。

③ 喜界島会場より

・社会資源が少ない喜界島では、社会資源ばかり頼らないで何人かで出来る取り組みが出来るのではと感じました。

グループホームなどがない島で、島外に行かないといけない状況・精神面・経済面の負担が大きい。保護者会など立ち上げたり組織など、どう進めていけばいいのか一緒に取り組んでいきたい。

・障害者の保護者が高齢化していき、独居生活がどれだけいるかなど、行政と情報を共有していきたい。

・今回研修会に参加し、知識面でも実践的な面でも大変勉強になりました。実際に体験することで、目が不自由な方がこんなにも不安なことがあるんだというのが実感できて大変勉強になりました。本町の場合、観光では集落歩きのボランティアガイドがいるので、ガイドの皆さんにも共有したいです。本日はありがとうございました。

・設備ばかりに気を取られず、マンパワーで出来る事（声かけなど）を実践していきたい。

・すぐに出来る事があるので取り組みをしていきたいと思う。

○成果と課題

◎観光団体、障害者・高齢者団体の代表者等を委員とした検討会の開催

- ・各参加者から活発な意見交換がなされたが、行政関係の参加が多く、当事者団体や観光団体の参加が少なかった。
- ・どこの島も同じような課題をかかえているので、島同士の情報共有の必要性を感じた。
- ・また福祉関係と観光事業者との関りが、島によって違うので、そこも情報共有できたらと感じた。

◎ユニバーサルツーリズムに係る実態調査・情報発信

- ・実態調査については、観光協会等の協力がありスムーズに行うことができた。
- ・飲食店や宿泊施設の情報発信件数が少ないので、さらに追加できればと思う。
- ・情報については、各観光協会と共有し、各施設のホームページ等がある場合は、リンクを貼るなどの工夫をし、お客様の目に留まるようにすることが今後の課題である。

◎ユニバーサルツーリズム推進に係るおもてなし研修会の開催

- ・研修会の参加者が島によって偏りがあった。
- ・宿泊施設や飲食店の方等の参加が少なかったのが、今後の課題である。
- ・施設調査の際に改善点を聞かれることもあり、今後は調査とアドバイスセットでの対応も考えられる。

◎その他

- ・島によっては、当センターと協働で次年度に向けて新しい取り組みの話があった。
- ・また積極的に住民参加の島もあり、今後の展開が楽しみである。
- ・高齢化が進んでいる島の中で、当たり前に行われている相互扶助があり、目線を変えて観光に取り入れることはそこまで難しいことではないと感じた

参考資料

令和4年10月4日(火) 奄美新聞

【第3種郵便物認可】

奄 美



実際に車いすに乗って段差などを体験する参加者たち

誰もが気兼ねなく旅行を

ユニバーサルツーリズム推進へ

龍郷町でおもてなし研修

学ぶ「講演」と、障がい者心理を知る「実体験」の二部構成で研修を行った。

後半は参加者ら同士でペアを組み、アイマスクでの歩行や車いすでの移動を実際に体験した。有効ツールとして、車いす牽引装置による対処法なども学んだ。

障がいの有無や年齢に関係なく旅行を楽しめる環境を整えるユニバーサルツーリズム(UT)を推進する事業「おもてなし研修」が3日、龍郷町のゆうがく館であった。旅行や宿泊業、観光団体職員ら18人が参加。講演や実体験を通して、誰もが気兼ねなく旅行ができるような仕組みづくり、環境整備のあり方などについて考えた。

奄美群島UT推進事業の一環で、県大島支庁が主催。オフィスFUCHI(埼玉県)代表のUTアドバイザー・瀧山知弘さんを講師に招き、UTの現状を

瀧山さんは「あきらめていた旅を叶えるツアー」と題し、車いす利用者が巡る「四国八十八カ所ツアー」や視覚障がい者を対象にした「自動車運転体験ツアー」などの事例を紹介。いち早く商品化した企業は売りに結びつけているとした上で、「できない理由を

令和4年10月4日(火) 南海日日新聞

南 海 日 日 新

【第3種郵便物認可】

高質な「おもてなし」を

観光業従事者ら対象に研修会

障がい者らへの対応法学ぶ

県企画観光課

障がいの有無や年齢などに左右されることなく、誰もが安心して旅行を楽しめる「ユニバーサルツーリズム」の推進を目的とした「おもてなし研修会」(県大島支庁総務企画課主催)が3日、龍郷町の生涯学習センター・りゅうがく館であった。旅行業や宿泊業者ら15人が参加。座学と実技を通じ、障がい者や高齢者らへの対応方法、受け入れ体制について知識を深めた。



車いす体験をする参加者ら。3日、龍郷町

県が2020年から実施している「奄美群島ユニバーサルツーリズム推進事業」の一環。奄美の基幹産業である観光業において、質の高い「おもてなし」ができる地域の構築により、プランニングを高めるのが狙い。講師は、大手旅行会社で20年以上にわたりバリアフリーツアーの運営に携わった実績を持つ、洞山知弘さん(53)が務めた。座学は「お客様のしたいを叶えるためには」と題して講演。観光庁が「アフターコロナ時代における地域活性化と観光産業に関する検討会」で掲げた▽価値創造型ビジネスへの転換、送客型から誘客型へのシフト▽新たな旅行市場の開拓▽独自の強みを生かした事業の多角化の推進▽アフターコロナにおける旅行需要の円滑な回復など―の四つの

ポイントに基づき、障がい者や高齢者らの旅行市場における現状や可能性を、自ら手掛けた旅行商品の事例と絡めて紹介した。

実技では、「アイマスク体験」と「車いす体験」を実施。身体障がい者の生活を疑似体験したほか、介助者の役割や安全な誘導方法について学んだ。航空会社勤務の松山すみれさん(25)「奄美市」は「介護福祉士の資格を持っているが、疑似体験を通してより一層、お客さまに寄り添い、傾聴しながらケアして行くことが大切だと感じさせられた」と話した。

洞山さんは「世界自然遺産に登録された奄美において、ユニバーサルツーリズムの推進は必須であり、遂行できるポテンシャルを十分に有した地域でもある。二次交通などハード面の課題はあるが、地域一体となり、観光業を盛り上げていってほしい」と述べた。

令和4年12月2日 奄美群島南三島経済新聞社（ネット版）

与論町でユニバーサルツーリズム研修会 全ての人に青い海を体験してほしい



NPO 法人「バリアフリーネットワーク会議」代表の親川修さん



ゆんぬ体験館（与論町）で11月29日、年齢や障がいの有無を問わず全ての人々が安心して楽しめる旅行を目指すユニバーサルツーリズムの研修会が行われた。

車いすを使う時の注意や、少ない力で介護、看護をするためのコツを指導

研修会は、鹿児島県大島支庁から受託したNPO法人「eワーカーズ鹿児島」が企画した。講師はNPO法人「バリアフリーネットワーク会議」代表で沖縄県障がい者スポーツ協会副理事長の親川修さん。「おもてなし研修会」と題し離島における海のアクティビティについて講演を行ったほか、車いすを用いた介助体験会を開いた。

講演では、「青い海、青い空は健常者だけのものなのか」と、誰にでも平等に優しい観光のあり方を説きながら、日本の旅行市場におけるユニバーサルツーリズムの可能性にも言及。海のアクティビティについても沖縄県での実例を交え、島のマリン事業者と介護事業者のノウハウを合わせれば実現可能であることを示した。

親川さんは「運営している障がい者施設の子どもたちが普通に楽しく生きられる社会にしたい。地域でユニバーサルツーリズムを進めるには、地元どんな資源があるかしっかり調べて磨くことが必要。地元には人材が必ず居る。ボランティアではなく、適切なサービスをして適切な料金を取ることが、相手を弱者とは見ないで対等に接するという。難しく考えないことが大事」と話した。参加者からは「目からうろこで、多くの気付きがあった」「すぐできることをやれるかは意識の問題。しっかりやっていかなければ」「介護、看護の技術を持つが働いていない潜在的な人材も居る。せつくなのでそういう方々が観光や地域の人々につながってほしい」などの感想が聞かれた。